

様な人々が多く住むところでは、住民へのサービスは中央政府による画一的なものでは不十分になりがちなので、地域の住民たちのボランティアで支えられ、お互いの生活を守っているように思われる。



写真 2 : 建物に描かれた壁画

左の写真は私が個人的に宿泊したホテル近くにあった建物に描かれた壁画である。アメリカでは、しばしば公共建築物の壁面を利用し、芸術家の支援や地域住民の心の支えを提供してきた。それは壁画を描いてもらうことによって実現してきた⁷⁾。この壁画がいつ頃描かれたのかは、わからない。しかし、描かれた時期は問題ではない。この壁画を通じて人が何を思い、何を考えてきたのかに、意味があると考えたのである。

「HARTLANDHOTEL」という文字が左側の建物の上にある。当初、その文

字を「HEARTLANDHOTEL」、すなわち「Heart Land Hotel」と読み取り、そのメッセージの意味することは「人種・民族が違おうと、この地域周辺は心の温かい人が多く住むところである」と示していると、勝手に思っていた。実際「HART」という単語が存在するかを、英和辞典で搜してみると「雄ジカ」という意味が当てられていた。しかし、この言葉の前にハートマークが付け加えられているので、当初の読み方が適当だと考えるに至った。ただ、残念なことは、この壁画は多くの人が集まるような場所に存在してはいなかったことだ。

西海岸の日系人の故郷と言え、ジャパントウン (Japan Town) である。1968 年に開設されて以来、日系人の文化的中心と言えるような場所である。サンフランシスコ市は、カリフォルニア州の中でもアジア太平洋出身者の人口が多いところである。2000 年の国勢調査によれば、カリフォルニア州における白人：黒人：アジア太平洋：ネイティブ・アメリカン：その他の割合を出すと 59.5 : 6.7 : 11.2 : 1.0 : 16.8 になり、サンフランシスコ市における数字は、49.7 : 7.8 : 31.3 : 0.4 : 6.5 という結果が出ている⁸⁾。アメリカへの移民数は全体的にはヒスパニック系とアジア系が増加していて、アジア系のほとんどがカリフォルニア州のサンフランシスコ市に住んでいるということだ。サンフランシスコにおけるアジア・パワーの力は確実に強力なものとなっているようだ。

そのアジア系の中で日系社会は大きな変化をとげつつあるようだ。このジャパントウンも言うまでもなく、変化の中にあつた。その変化は日系人の人口問題にあつた。日系はかつてアジア系の半数を占めるほどであったが、今や約 1 割弱で、新たに移民も増えないまま今日に至っている。

このジャパントウンには、日本文化の中に韓国の勢力が入り込みつつあるという。実際、この地へやってきて、周囲の風景やそこに集まる人々を眺めてみると、日系人よりも韓国系と思われる人が多く集まってきているように感じられた。



写真 3 : ジャパントウン沿いの通り